

中野神社

中野神社は、799 年に中野村（現在の東中野）に建立されました。18 世紀初頭にこの地域で大凧作りが始まると、地元の人々に親しまれた場所であり、敷地内の広い空間があったことから、協力して大凧を製作する場となりました。

19 世紀中頃には、この神社は「東近江大凧の発祥地」として知られるようになりました。約 100 畳（1 畳は 1.65 平方メートル）の大凧は、神社の敷地内で製作され、沖野ヶ原と呼ばれる広場へ運ばれて揚げられました。これらの大凧は広く知られるようになり、中野村は地域で最も優れた凧職人の里として名を馳せるようになりました。

1991 年には、巨大な大凧の製作を行うために「東近江大凧会館」が建設されました。それに伴い、神社近くでの凧作りは途絶えましたが、現在でも東近江の人々は、自分たちの大凧の成功を祈願するために中野神社を訪れています。